那覇市ちゃーがんじゅう課
受付
-4.4.04
福祉部

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」　総括表

法人名	医療法人　陽心会	代表者	高良　健
事業所名	小規模多機能型ホーム大道	管理者	仲本　親一

法人・事業所の特徴	「24時間365日、小規模だから出来る事がある」住み慣れた地域で、必要な医療と介護のサービスを提供し、本人、家族が共に安心して生活が続けられるよう個々の事情を配慮したサービスの提供を行っている。

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	1人	1人	1人			1人		12人		

項　目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所の自己評価の確認	介護職員、ケアマネ、看護師、管理者が利用者の日中から夜間の状況、また基本情報を把握し皆で情報共有の強化を行う。	申し送りやミーティングで話し合い職員間で情報共有し今の利用者に合わせた支援ができているまたご家族からの情報や支援経過など朝の申し送りや会議など通じて職員全体で共有できている。	職員の支援に意思疎通が困難な利用者の理解を得るのに時間がかかりすぎてしまうことがあるため利用者が不穏になることがある。コミュニケーション技術や支援技術などもっとスキルアップが大事	職員全体で情報管理を徹底して行い共有し利用者へ最善の支援ができるよう努めていく。
B. 事業所のしつらえ・環境	コロナ禍が収束した時には地域の方々に気軽においでいただくよう利用者の作品などを披露し入りやすい雰囲気を作っていく。	季節の飾りなど工夫してきたが地域の方々など来所は制限されほとんど交流できていない。	季節のイベントは事業所内で行い季節に合った飾りつけなど行い利用者に喜んでもらえた。	コロナ禍にであってもイベントや外出支援など 利用者へ不自由の無いよう工夫して楽しんでいただけるよう努力する。
C. 事業所と地域のかかわり	地域交流室の活用を促進するためコロナ禍収束にむけ今までのサークルの方々との関係を大切にし新規利用者にも使っていただけるよう情報発信していく。	現在コロナ禍は全く収まってなく地域交流室の提供ができず、また情報発信については躊躇せざるえない状況である。	コロナ禍により地域交流室は使用停止中で家族なども立ち入り禁止で地域とのかかわりは困難でした。	コロナ禍であっても以前交流があった方々や地域交流室を活用していた方々へ情報発信しかかわりが途切れないよう　またコロナ禍終息時には速やかに交流再開できるよう努めていく。
D.地域に出向いて本人の暮らしを支える取り組み	コロナ禍により制限や自粛等不自由があったがその時に応じ適切な判断で支援できるよう努力する。	馴染の診療所や美容室など感染対策を重視し引き続き活用できるよう努めることができた。	利用者の会話などから人間関係やかかわりなど聞き出しその関係が途切れないよう努めることができた。こちらからも地域とのかかわりを強化するため早くコロナが終結してほしい。	利用者の生活環境を理解するよう努め外出支援など積極的に行っていく。
E..運営推進会議を活かした取組み	現在まで利用者家族や介護職員など積極的に参加できなことが多かったが参加を募りご家族をお誘いしたりと全体の連携を深めていく。	コロナ禍の為事業所全体が職員、利用者以外立ち入りを禁止している。よって運営推進会議は職員のみで行うことになったが運営に活用することができた。	ほとんどコロナ感染対策になるが職員で運営推進会議行うことで全体で気を付けることができたと思います。コロナ禍であっても利用者の不自由をできるだけ減らせるよう努力することが大事。	運営推進会議においてはコロナ禍にの為以前のように外部の方々にお越しいただくことは困難である為職員で行うことになるが運営にまたは利用者支援にしっかりと活用できるよう努める
F.事業所の防災・災害対策	防災訓練開催時には前もって地域の皆さんやご家族さんなど参加いただき防災に対し意識を高めていくよう努力する。	コロナ禍により困難な状況ではあったが職員、利用者のみで行う事ができた。	当事業所ビル3事業所で防災訓練を行ったがやはり大事なことだと感じ真剣に取り組むことができた。	毎年の防災訓練だけではなく防災研修等行い意識を高め対策に努めていく。